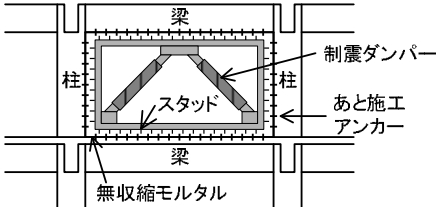
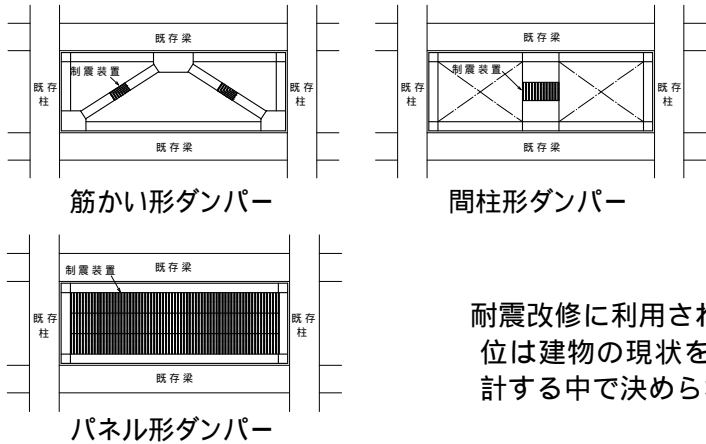


最終更新日 H24.10.24
改修技術 No. 13104001

性能分野	耐震性
大分類	耐震性の向上
中分類	地震時（地震力作用時）の応答の低減（制震部材の導入）
技術の名称	制震工法
改修技術の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存建物の柱・梁フレームに制震ダンパー付き架構を設置することにより、制震ダンパーによるエネルギー吸収を図る。 ・ 減衰力を付加する機構、部材形状によるバリエーションがある。 ・ 壁が少なく、靱性能のある建物に用いられることが多い。靱性能のない建物に用いる場合には、柱の鋼板巻き立て補強や繊維巻き補強と併用される場合が多い。 ・ 制震装置の性能を十分発揮するためには、制震装置の取付部の剛性や強度について取付部の変形が卓越しないように十分な剛性・強度を確保する必要がある。 ・ 耐震診断法では補強効果の確認が出来ない。時刻歴応答解析など高度な解析を必要とする。
	 <p>・ ダンパーの種類、建物の環境によっては、ダンパーの異常、不具合等の早期発見のために定期点検を行う必要がある。</p> <p>手順：</p> <pre> graph TD A[既存仕上げ撤去] --> B[既存躯体表面目荒し] B --> C[ひび割れ補修] C --> D[あと施工アンカー打設] D --> E[ブレース建込み] E --> F[鉄骨枠と既存躯体の間にモルタル圧入] F --> G[仕上げ] </pre> <ul style="list-style-type: none"> *1：既存躯体に構造ひび割れがある場合、樹脂注入工法によりひび割れを補修する *2：あと施工アンカーを用いず、接着剤により、補強鋼板と既存躯体を接合する工法もある。（特殊工法のため、施工者が限定される） <p>施工手順は、枠付鉄骨ブレース補強（13101302）と概ね同様である。外側改修とする場合は、外側改修（13101401，13101402）の手順も参照されたい</p> <p>工期は10階建SRC造共同住宅（50m²/戸、1階当り10戸）を施工する場合で、2～6ヶ月（但し、条件によりかなりの誤差がある）。</p> <p>代表的な形状によるダンパーの分類：</p>  <ul style="list-style-type: none"> 筋かい形ダンパー 間柱形ダンパー パネル形ダンパー <p>耐震改修に利用される工法と適用される部位は建物の現状を踏まえて耐震改修を設計する中で決められる。</p>

